

前回の懇談会でいただいた意見の概要

《持続可能な行財政運営プラン（骨子）等》

<全般的事項>

- ・計画期間を令和3年度から令和7年度の5年間としているのはわかるが、プランの方針や取組は10年程度先の未来を見据えて考えるべきではないか。
- ・市民の多くは市財政の現状に安心感を持っているので、人口減少が進んでいく中、「このままでは大変なんだ」ということを理解してもらうことが重要ではないか。
- ・「施設の見直しや料金改定等に、今なぜ取り組む必要があるのか」という普通に感じる疑問に答える説明が必要ではないか。
- ・サービスや料金の見直しの具体的な根拠が少ないので、市民が共有できるように市の現状認識をもっと書き込むべきではないか。
- ・市が目指す方向性を市民や職員が感じ取れるように、市の考えをもっと書き込むべきではないか。
- ・「必要な見直しは行うがサービスの質はできるだけ落とさない」という考え方をしっかり伝えるべきではないか。
- ・市民にとってマイナスに感じるものが前に出ているので、取組は明るく前向きなことも併せて市民に伝わるようにしてほしい。

<個別事項>

【使用料・手数料】

- ・料金を改定する場合の効果見込額は、改定による需要の変動予測も踏まえる必要がある。

【連携・協働】

- ・民営化の推進や民間サービス等の活用にあたっては、市の考え方や立場を明確にした上で、民間への影響を考える必要がある。

【未来への投資】

- ・各種取組によって期待される市税の増収見込み等の効果も、プランに書き込めないか検討してほしい。
- ・様々な見直しで得られる効果を何のために使うのか、説明を加えていただきたい。
- ・人材育成や未来への投資の効果見込額は算出困難だろうが、どのような効果や期待を求めているのか市民に分かるように数値化してほしい。（例：起業者数、大学と企業の連携数など）

【プランの進捗管理】

- ・各年度の具体的な取組をPDCAサイクル等でマネジメントする仕組みづくりが必要ではないか。
- ・令和3年度に向け検討しているものだけでなく、全体のロードマップも整理していただきたい。